

# 土木学会四国支部「土木紀行」 No.87 (香川県)

## 屋 島

香川県高松市の北東部に位置する屋島は、その地形・地質的特徴から昭和 9年に国の天然記念物に指定されると共に、屋島を含む瀬戸内海国立公園が我が国最初の国立公園に同年に指定されています。屋島は南北幅約 5km、東西幅約 2kmの瀬戸内海に突き出た南北に長い台地状の半島で、南嶺（標高292m）と北嶺（標高282m）が細長い尾根によってつながっています。

屋島の地形は台地状（メサ）であり、安山岩のキャップロックにより山頂部に2つの広い平坦面を有する台地となっています。屋島のユニークな地形は、高松市の景観を特徴付けるランドマークともなっています（写真-1参照）。



写真-1 屋島の遠望（高松市中心部から屋島を望む）

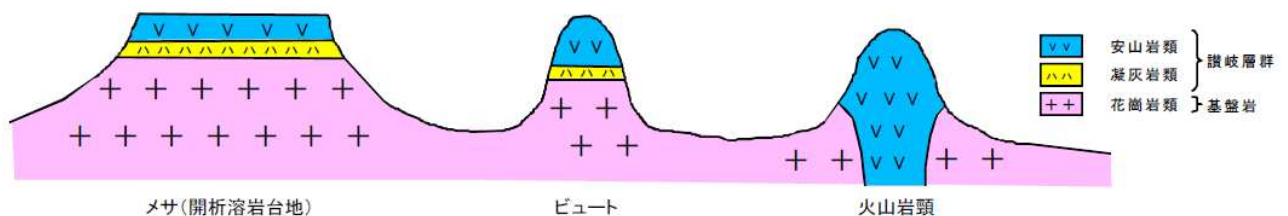


図-1 讃岐平野の残丘の地形と内部構造<sup>1)</sup>

ここで、屋島の地形的特徴であるメサとは、水平な硬岩層が侵食に抵抗して生じた平坦な頂面と、周縁の急な崖とをもつ台地の地形を指し（地学辞典，1981），小型の頂面より崖面の大きいものをビュートと言います（図-1参照）。

屋島の地形の特徴に、屋島の東にある五剣山周辺の丘陵と比較して、屋島の谷の発達著しく悪いことが挙げられます（図-2参照）。五剣山は山頂部に険しい岩峰がそそり立っており、その周囲の丘陵に波谷が深く刻まれています。屋島の斜面は平滑で谷が少なく標高が高いほど傾斜も大きい寺勾配となっていることが分かります。

屋島は黒雲母花崗岩を基盤とし、北嶺では標高150m付近より火山礫凝灰岩が、標高180m付近から讃岐岩質安山岩がほぼ水平に重なっています（図-3参照）。台地周囲を含む急崖には、安山岩の柱状節理が明瞭に現れ、山頂部には部

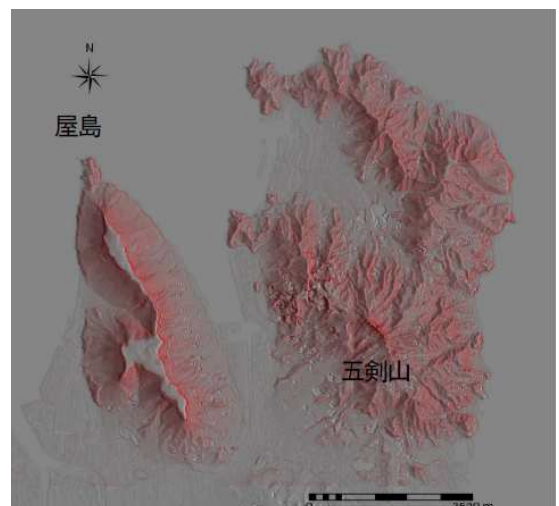


図-2 屋島と五剣山の赤色立体地図<sup>2)</sup>

分的に雪の庭凝灰岩および屋島礫層が分布しています。

屋島には洞窟が多く分布しています。屋島の北嶺に分布する層厚約20mの火山礫凝灰岩および凝灰質砂岩は屋島の黒石と呼ばれ、江戸時代から昭和の初めにかけて採掘されました<sup>3)</sup>。北嶺の遊歩道の側には黒石の採掘跡の洞窟があります。洞窟入り口まで近づくことができますが、洞窟内への立ち入りは禁止されています（写真-2参照）。洞窟の内部は多くの岩盤崩落があるとのことで、中を覗くと狭くて真っ暗なこともあり、中に入る勇氣はとて出ませんでした。

屋島の最北端は長崎の鼻と呼ばれ、その立地上の優位性から、かつて砲台があったところです（写真-3参照）。長崎の鼻に設置されている案内版には、「1853年（嘉永6年）ペリーが軍隊を率いて浦賀に来航して以来、国内では、海防の必要性が強く叫ばれるようになりました。讃岐では、1863年（文久3年）幕府の命を受けた高松城主松平頼聡が高松の港を守るため、ここに砲台を築きました。」とあります。実際に砲台跡に立つと、瀬戸内海が広がり、“敵の襲来から高松の街を守る”という当時の武士の気持ちが分かりました。

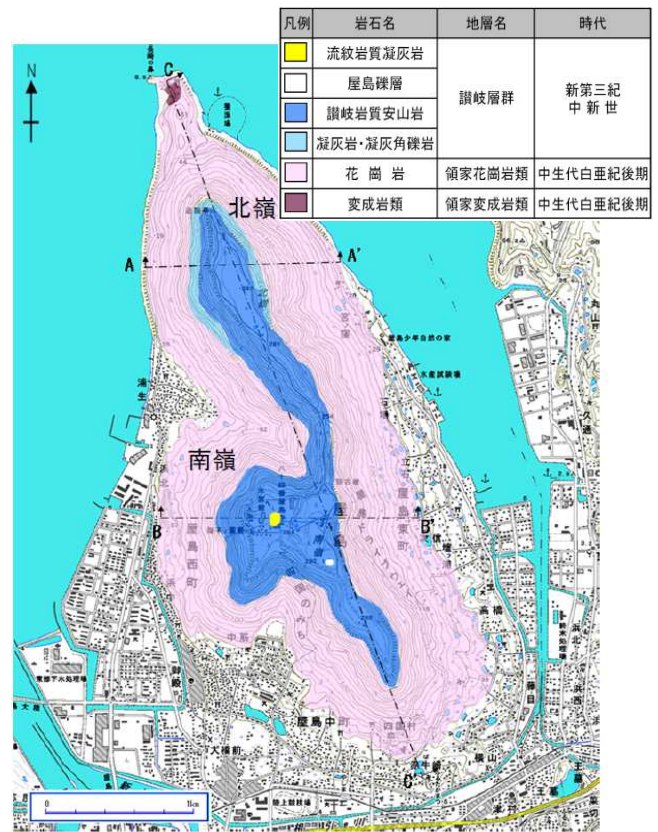


図-3 屋島の地質平面図<sup>2)</sup>



写真-2 屋島の洞窟（黒石の採石跡）



写真-3 長崎の鼻砲台跡の先に広がる瀬戸内海

参考文献：

- 1) 長谷川修一, 鶴田聖子, 野々村敦子, 山中 稔, 守山裕二：屋島が開折されると讃岐富士になるか？, 日本応用地質学会中国四国支部平成24年度研究発表会論文集, pp. 29-34, 2012.
- 2) 長谷川修一：屋島のメサはどのようにしてできたのか？, 連載講座「古代山城屋嶋城跡から歴史と地域を考える（2）」, 高松市文化財課, 12p., 2013. 7. 27.
- 3) 長谷川修一, 鶴田聖子：讃岐ジオサイト（10）屋島, 讃岐ジオサイト探訪, 香川大学, 2013. 3.

土木学会四国支部「土木紀行」 <http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>

執筆担当：香川大学大学院博士前期課程安全システム建設工学専攻 1年 西脇 大祐  
香川大学工学部安全システム建設工学科 4年 砂川 大和